

9, ブナ科の巨木 Fagaceae

■ブナ科の巨木は以下に分類する。

- | | | |
|-----------|-----------|---------|
| A ブナの巨木 | E アベマキ | I クリの巨木 |
| B ミズナラの巨木 | F クヌギの巨木 | |
| C コナラの巨木 | G カシの巨木 | |
| D カシワの巨木 | H スダジイの巨木 | |

9-A ブナ(樺)の巨木 ブナ科ブナ属 Fagus crenata

■ブナの巨木は以下に分類する。※ブナはほとんどが天然ブナであるが、人の手によって伐採され、切株更新による変型ブナの巨木が各地で確認されている(一般に「あがりこ」と呼ぶ)。単幹ブナと変型ブナを同一視すると無理が生ずるため分類して比較することにした。

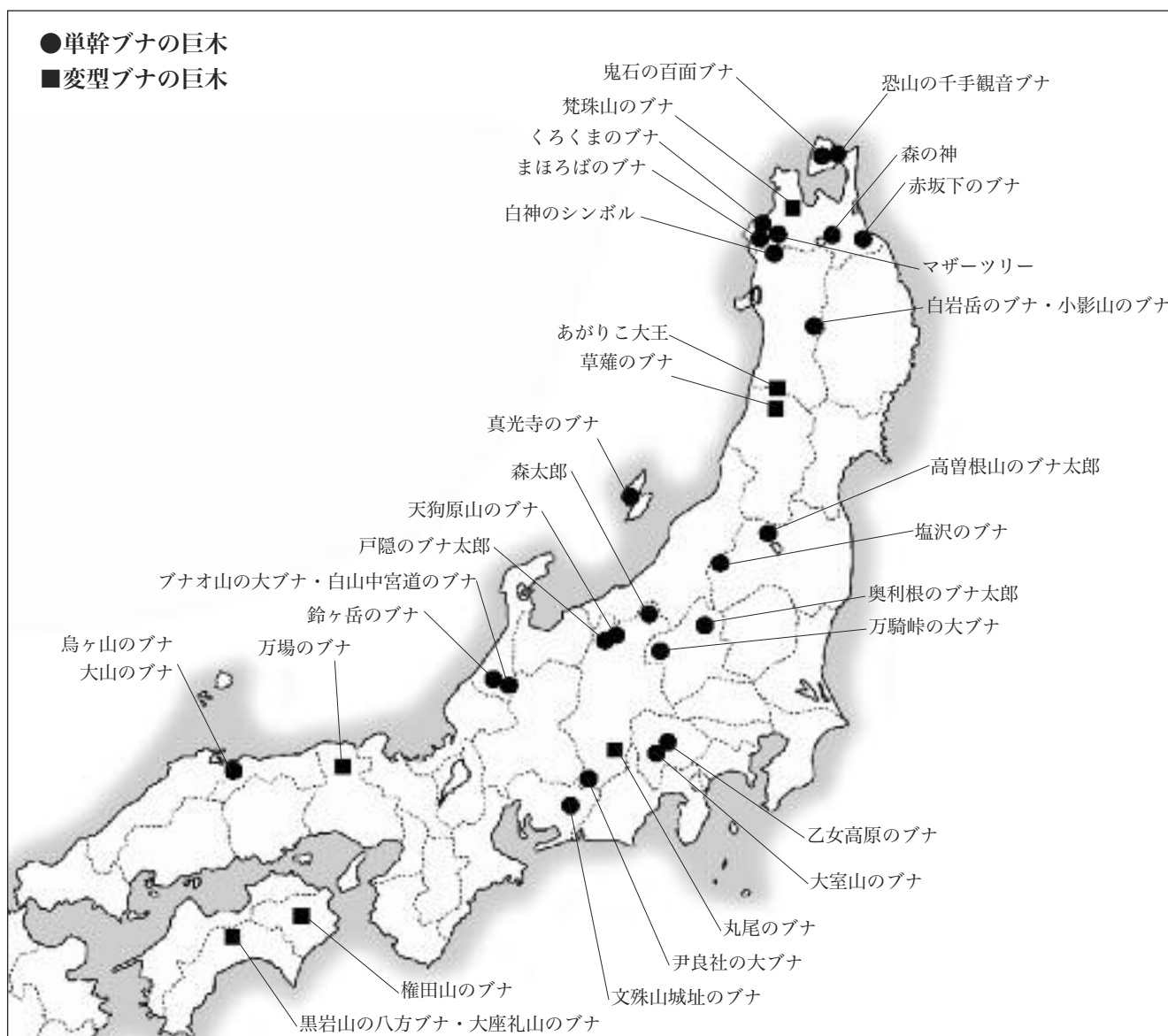
9-A-1 単幹ブナの巨木

9-A-2 変型ブナの巨木

9-A-1 単幹ブナの巨木

■単幹ブナの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 6m 以上の単幹樹、同等評価のブナの巨木。
- B 幹周おおむね 4~6m の単幹樹、同等評価のブナの巨木。
- C B 評価以下のブナの巨木。



■主な単幹ブナの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
枯死	函南原生林のブナ 写真 B-001	6.4m	24m	静岡県田方郡函南町桑原字大樹立	なし
A	塩沢のブナ 写真 B-002	M5.82m(1.3m 2012)	25m	福島県南会津郡只見町	なし
A	森の神 写真 B-003	M5.73m(1.3m 2009)	29m	青森県十和田市奥瀬	なし
A	高曽根山のブナ太郎 写真 B-004	5.7m	20m	福島県耶麻郡北塩原村松原	なし
B	森太郎 写真 B-005	M5.6m(1.3m 2009)	25m	長野県飯山市鍋倉山	なし
B	白岩岳のブナ 写真 B-006	M5.5m(0.5m 2008)	24m	秋田県仙北市角館 白岩岳尾根	なし
B	ブナオ山の大ブナ 写真 B-007	M5.8m(1.3m 2009)	20m	石川県白山市一里野 ブナオ山尾根	なし
B	天狗原山のブナ 写真 B-008	M6.08m(1.3m 2009)	15m	長野県北安曇郡小谷村 天狗原山登山道	なし
B	鬼石の百面ブナ 写真 B-009	5.2m	20m	青森県むつ市田名部字曾利山	なし
B	戸隠のブナ太郎 写真 B-010	5.2m	25m	長野県長野市戸隠	なし
B	白山中宮道のブナ 写真 B-011	5.02m	25m	石川県白山市中宮 白山中宮道尾根	なし
B	トワイナリ沢のブナ 写真 B-012	5.1m	22m	青森県むつ市城ヶ沢永下熊野支流	なし
B	片川の巨大ブナ 写真 B-013	5.0m	20m	徳島県美馬郡つるぎ町 矢筈山北尾根	なし
B	くろくまのブナ 写真 B-014	5.14m	20m	青森県西津軽郡鰺ヶ沢町一ツ森町	なし
B	深山遊園北野の郷のブナ 写真 B-015	5.0m	25m	長野県北安曇郡小谷村中小谷丙	なし
B	マザーツリー 写真 B-016	4.7m	30m	青森県中津軽郡西目屋村津軽峠	なし
B	鈴ヶ岳のブナ 写真 B-017	M4.3m(1.3m 2009)	25m	石川県小松市大杉 鈴ヶ岳中腹	なし
B	白神のシンボル 写真 B-018	4.9m	26m	秋田県山本郡藤里町藤琴	なし
B	奥利根のブナ太郎 写真 B-019	M4.92m(1.3m 2015)	27m	群馬県利根郡みなかみ町藤原	なし
B	恐山の千手観音ブナ 写真 B-020	4.65m	20m	青森県むつ市田名部字曾利山	なし
B	万騎峠の大ブナ 写真 B-021	M4.05m(1.3m 2015)	16m	群馬県吾妻郡長野原町応桑	なし
B	乙女高原のブナじいさん 写真 B-022	4.9m	18m	山梨県山梨市牧丘町柳原 乙女高原	なし
B	大室山のブナ 写真 B-023	4.5m	20m	山梨県南都留郡富士河口湖町本栖	なし
B	文殊山城址のブナ 写真 B-024	4.85m	20m	愛知県新城市作手清岳	なし

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	大山のブナ 写真 B-025	4.2m	20m	鳥取県西伯郡大山町	なし
B	別山道のブナ 写真 B-026	M4.4m(1.3m 2009)	25m	石川県白山市市ノ瀬別山道	なし
B	別山道の連理ブナ 写真 B-027	株周 6.85m(1.0m 2009)	20m	〃	なし
B	薬師岳のブナ 写真 B-028	M4.72m(1.3m 2014)	30m	秋田県大仙市太田町 真木山国有林	なし
倒木	小影山のブナ	株周 8.1m	33m	秋田県仙北市田沢湖卒田 小影山頂上	なし
枯死	烏ヶ山のブナ 写真 B-029	5.8m	25m	鳥取県東伯郡琴浦町	なし
枯死	森姫 写真 B-031	5.0m	20m	長野県飯山市鍋倉山	なし



◀写真 B-001 旧日本一のブナ・枯死かなみげんせいりん 函南原生林のブナ

枯死するまでは単幹日本一のブナであった。2008年頃には倒木していたと思われる。2mで2分岐するものの、見事な単幹ブナで、樹齢700年ともいわれ、ブナとしては希有な存在であった。しばらく日本一の座がなくなっていたが、その後次々と発見されていく。しかし、まだ未確認のブナの巨木が発見される可能性がある。(写真・渡辺典博)



写真 B-002▶

日本一のブナ しおざわ 塩沢のブナ

只見町の自然愛好家が偶然に発見した。原生林の中にあり、尾根の急斜面に立つ。三頭木なのは、「森の神」と同じ樹形で、神が宿るとして伐採から逃れたものか。外形はほとんど損傷がないように見えるが、内部は空洞化し、いつ倒木してもおかしくない。そのため、根元に立ち入る事や、周辺環境を変化させる事はそのまま倒木の原因に繋がるとして、全ての立ち入りを許可していない。

発見時、山側1.3m地点を測定した結果5.18m。2012年、M式測定法では5.82m、「森の神」の幹周M5.73mを抜いて単幹日本一のブナになった。しかし、この差は測定誤差の範疇で、両者とも樹形、品格、立地とも同格と判断した。



▲写真 B-003 日本一タイのブナ ^{もりのかみ} 森の神

「森の神」の発見場所は意外にも道路から200m 入った林の中。この場所は、十和田湖に近い奥瀬と呼ばれる原生林で、平坦になった場所に生えていた事で巨大化し、三頭木である事が伐採から逃れたと言われている。主幹がまっすぐに伸びた樹形は、積雪で変形しやすいブナとしては珍しい樹形で、品格がある。森の神としても実にふさわしい風格を備えているといえよう。ちなみに、巨木DB 幹周6.01m は、凹凸に沿っての測定か、現在20㍍程根元に土盛りがあり、土盛りのなかった頃に、主幹20㍍下部での測定かは不明。

写真 B-005▶
^{もりたろう} 森太郎

鍋倉山の中腹、標高980m の斜面に立つ。「森の巨人たち百選」に選ばれ脚光を浴びるが、2011年に近くにあったブナの巨木「森姫」が枯死した事を受けて、入山を厳しくした。現在は根元に立入りを制限している。6m に出ている大枝は枯死、8m で2分岐する。



▲写真 B-004
^{こうぞねやま} 高曽根山のブナ太郎

道はなく、積雪期に一時間程で到達できる。見事な単幹ブナで、地元では日本一といわれている。(写真・Web 画像)





▲写真 B-006

しらいわだけ
白岩岳のブナ

白岩岳のブナは、1993年に地元の山岳ガイド佐藤隆氏によって発見された。当時の測定風景が残されている。地上1.3mの幹が膨らんだ部分を、しかも凹凸に沿って測定した幹周が8.6mあり、日本一とされたという。

M式では、本来の幹を表現している根元近くを測定し、M5.5mとなる。かつて日本一という事で、バスで訪問者が押しかけたと言うが、現在はほとんど訪れる人もいないのは、その幹周からくるギャップによる落胆が関係している事が想像される。



▲写真 B-007

やま おお
ブナオ山の大ブナ

幹周だけで比較すると日本一のブナになってしまう。もともと地上2.5mで大きく二分岐していたが、材木運搬用のワイヤーを片方に固定した事で折れ、樹形が貧弱になった。その事が日本一に選定しなかった理由。標高640mのブナオ山登山道途中に立つ。

▼写真 B-009

ひやくめん
百面ブナ

奇岩・鬼石近くにあり、主幹にコブが多く、奇怪な姿をしている。(写真・Web画像)



◀写真 B-008

てんぐはらやま
天狗原山のブナ

天狗原山の登山道入口から約10分程登った斜面に立つ。崖の際に立つ事から、谷側に大きく主幹が膨らむ樹形になり、幹周の数字が大きくなるが、上部を見ると決して巨大なブナではない。そのため地元でのブナの巨木としての認識はなく、標識もない。巨木の条件の難しさを物語る一本だ。





▲写真 B-010
とがくし
戸隠のブナ太郎

戸隠の原生林の中に立ち、到達する道はなく、積雪期に片道一時間程の距離にある。近年ブナ人気で訪れる人が増え、踏み荒らすとすぐに樹勢が弱り、枯死することが多発している。道を付けない事が最良の保護策である。(写真・Web 画像)



▲写真 B-011
はくさんちゅうぐうどう
白山中宮道のブナ

白山禅定道の一つ「中宮道」の尾根近くにあるが、登山道から離れて立つため発見は困難。(写真・坪田和人)



▲写真 B-012
トナイワリ沢のブナ

下北半島のトナイワリ沢にあり、堂々とした樹形は貫禄があり、山の神にふさわしい。(写真・Web 画像)



▲写真 B-013
かたかわ きよだい
片川の巨大ブナ

矢筈山の北尾根に立つ。明確な位置情報はないので、ガイド無しには到達困難。(写真・Web 画像)



▲写真 B-014
くろくまのブナ

白神山地にあり、2本の合体木。くろくまの滝近くにある。(写真・Web 画像)



▲写真 B-015
みやまゆうえん きたの ぎと
深山遊園北野の郷のブナ

ブナの原生林がある自然公園内に立つ。(写真・Web 画像)



▲写真 B-016

マザーツリー

白神山地の青森県側のシンボルツリーとして有名になった見事な単幹ブナの巨木である。(写真・Web 画像)



▲写真 B-017

すずがたけ
鈴ヶ岳のブナ

鈴ヶ岳の標高 920m 地点、登山道がある尾根の隣の尾根筋に立つ。同じ程のブナが尾根上にもう一本ある。もともとこの名前のブナは登山道沿いにあったが枯死した。1970 年代に、小松市自然保護協会の調査に同行して確認した。



▲写真 B-018

しらかみ
白神のシンボル

「森の巨人たち百選」に選ばれたブナの巨木。別名「400 年のブナ」ともいわれている。(写真・渡辺典博)



▲写真 B-019

おくとね
奥利根のブナ太郎

県道沿いの展望所から見上げるように聳えている。昭和 30 年代に、森林鉄道が開通したが、事故が多発し、安全祈願のためにこのブナの巨木を「山の神」として祀り、「ブナ太郎」と命名したという。



▲写真 B-020

おそれざんせんじゅかんのん
恐山千手観音ブナ

道路から見える藪の中に立ち、上部が多数に分岐する樹形。(写真・Web 画像)



▲写真 B-021

まんきとうげ おお
万騎峠の大ブナ

峠の傍らの土盛りの上に立ち、古来より峠を通行する旅人を見守ってきた。



▲写真 B-022
おとめこうげん
 乙女高原のブナじいさん
 (写真・Web 画像)



▲写真 B-023
おおむろやま
 大室山のブナ(写真・Web 画像)



▲写真 B-024
もんじゅやまじょうし
 文殊山城址のブナ(写真・石田徹)



▲写真 B-025
だいせん
 大山のブナ(写真・Web 画像)

▼写真 B-028
 薬師岳のブナ
 薬師岳のミズナラ近くに立つ単幹ブナ。



▲写真 B-026
べつざんどう
 別山道のブナ
 市ノ瀬から別山道に入り、水平道の途中に立つ。B-027 はその近くの藪の中にあり、探索は至難。

▼写真 B-029
からすがせん
 枯死・烏ヶ山のブナ(写真・Web 画像)



▲写真 B-027
べつざんどう れんり
 別山道の連理ブナ
 別山道のブナ近くの藪の中に立つ。

▼写真 B-030
もりひめ
 枯死・森姫(写真・Web 画像)



9-A-2 変型ブナの巨木

※分岐幹で大きく広がる樹形の変型ブナを、これまでの測定方法である山側 1.3m 地点を水平に測定すると、実感される大きさより大きな数字が出る。これは必然的な事で、数字が一人歩きして、日本一のブナとされるものが後を絶たない。巨木学では、変型ブナとして取扱い、評価基準が曖昧なので、評価は避け、紹介するに留める。



ぼんじゅざん 梵珠山のブナ

幹周 8.6m(巨木 DB 記載)

青森県青森市浪岡釈迦

左は Web サイトで閲覧できる画像で、測定時の様子がわかる。測定道具を持たないでこのような樹形の山側 1.3m 地点を水平に正確に測定するのは無理がある。測定結果が 8.6m と出て、日本一のブナと申請したという。あがりこ樹形で、分岐によって大きく広がった部分は本来の幹を表現しておらず、実際の幹は根元部分。



右も「梵珠山のブナ」といわれる変型ブナで、遊歩道をしばらく登ると立っている。左上の巨大なブナは中腹にあり、道がない。右は巨木 DB では幹周 6.8m、M 式では M5.95m(上部 0.2m)となる。地上 2m で 2 分岐する樹形で、巨大感はありませんので、M 式が実感される大きさを表現している。

だいおう あがりこ大王

幹周 M4.7m(0.3m 2006) 樹高 25m

秋田県にかほ市象潟町横岡字中島台

中島台レクリエーションの森の山中に立つ。途中「燭台」と呼ばれる変型ブナや、あがりこの変型ブナが多く見られる。「あがりこ」とは、薪炭材として伐採された株から再び発芽し巨大化した樹形をさし、奇怪なものが多い。もともと根がしっかりと発達しているため、意外に短時間で巨大化する事が知られている。

このような樹形の場合、1.3m 地点の幹周を強引に測定すると大きな数字が出てしまう。M 式では根元の最もくびれた部分を測定する。ここが元々の主幹の大きさである。同じ幹周の単幹樹と比較する事はもともと無理があり、変型ブナの評価は出しにくいのが現実だ。





しよくだい
◀燭台

幹周 M4.2m(0.3m 2006) 樹高 20m
秋田県にかほ市象潟町横岡字中島台

あがりこ大王手前の遊歩道沿いに立つあがりこ樹形のブナ。樹形が燭台に似る事による。



あかぼやしやま

▲赤林山の大ブナ

株周 6.4m(1.3m) 樹高 20m

岩手県紫波郡矢中町煙山 箱ヶ森登山道
(写真・Web 画像)



くさなぎ

◀▲草薙のブナ

幹周 M5.28m(分岐 0.5m 2014) 樹高 20m
山形県最上郡戸沢村草薙

発見当初幹周 10.3m で、日本一のブナとして報道された。その時の測定風景から、山側 1.3m 地点を水平に測定している事がわかる(上写真・Web 画像)。この位置は本来の幹を表現する位置ではない。



^{まるお}
▲丸尾のブナ

幹周 M6.57m(上部 0.7m 2008) 樹高 18m
長野県上伊那郡中川村大草沢入山

標高 1,300m の陣馬形山中腹の尾根に立つ変型ブナ。陣馬形山のブナとも言われている。根元近くで4分岐し、ほぼ同じ太さの幹が株立ちになっている。切株更新によるあがりこ樹形。



^{まんぼ}
万場のブナ

幹周 6.15m(1.3m) 樹高 30m
兵庫県豊岡市日高町万場

蘇武山の尾根にあるあがりこブナ。
(写真・Web 画像)



^{ごんだやま}
権田山のブナ

幹周 4.4m(1.3m) 樹高 18m
徳島県那賀郡那賀町岩倉

尾根に大きなブナが二本あり、一本はほぼ崩れ、この一本は 1.5m で多数に分岐する。(写真・Web 画像)



^{くろいわやま}
黒岩山の八方ブナ
幹周 6.1m(1.3m) 18m
高知県土佐郡土佐町上津川

1.5m で8分岐し、四方八方に幹を広げる樹形である。
(写真・Web 画像)



^{おおざれやま}
大座礼山のブナ

幹周 4.3m(1.3m) 20m
高知県土佐郡大川村大北川

大座礼山の尾根にはブナの巨木が多く、その内の最大株。1.5m 付近で多数に分岐し、大きく枝葉を広げる。(写真・Web 画像)